

# 近代日本の歴史学とフランス 日仏交流 150年の軌跡から

平野千果子・高澤紀恵 編

明治維新を機に日本語世界とフランス語世界の交流は始まり、1924年創設の日仏会館はその一翼を担ってきた。

日仏の歴史家がここで出会い、日本の歴史学も大きな影響を受けた。アナール学派の新潮流やフランス革命200周年の議論は、戦後歴史学の転回をも促した。

そして21世紀の今、歴史学は過去をどう振り返り、何を語っていくのか？

## 目次

まえがき 高澤紀恵

### 第I部 シンポジウム「近代日本の歴史学とフランス」報告から

報告① 近代日本における「フランス史」の黎明——箕作麟祥と箕作元八 高橋暁生

報告② 鉛の靴、火の翼、そして主体性——高橋幸八郎と井上幸治の「フランス歴史体験」 小田中直樹

報告③ ル=ゴフ・ショックから転回／曲がり角、その先へ——日仏会館から考える 高澤紀恵

報告④ フランス領カリブ海世界から考える人種とジェンダー——マルティニックの作家マイヨット・カペシアを  
素材として 平野千果子

### 第II部 報告によせて

歴史学の課題——フランスに学ぶ・フランスと共有する 森村敏己

日本近現代史学史の視点から 戸邊秀明

### 第III部 特別寄稿——批判と提言

深層と重層——1970・80年代の日本におけるアナール学派とフランス史研究 長井伸仁

「六角形の歴史」を越えて——フランスにおける世界史／グローバル・ヒストリー実践 館 葉月

歴史教育と歴史家——フランスの学習指導要領からみえる世界 前田更子

イギリス史家たちの場合——雑誌『イギリス史研究』（1968～85年）からみえるもの 坂下 史

「蜜月」と「すれ違い」と——日本とフランスの歴史学、あるいはフランス革命史研究と明治維新史研究について  
二、三のこと 成田龍一

反省的所感 西洋史研究におけるフランス学 近藤和彦

あとがき 平野千果子

巻末年表

新刊受注締切  
3/11(水)

番線印

ご注文数

冊

[ご担当名: ]

四六判 上製 288頁

ISBN: 978-4-634-52032-5 C0022

予価 3,300円 (本体 3,000円 + 税)



明治維新、フランス革命200周年、そしてこれから  
—歴史家たちの出会い、対話、協働の軌跡—